

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム大空 Aユニット	評価実施年月日	平成21年9月1日
評価実施構成員氏名	福澤 森谷 松田		
記録者氏名	福澤	記録年月日	平成21年9月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>人としての尊厳を守り、住み慣れた地域でその人らしい生活を継続していける様にできるだけ地域行事へ参加や、地域商店の利用、地域での散歩を実施しています。又町内会、地域推進委員会の方との交流を通し地域の住人として親しまれる施設である様努めています。</p>	<p>地域の方も気軽に来所して頂けるホームを目指したい。ホームから地域の老人クラブへ訪問し交流する予定があります。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>その人らしく日々生活して頂ける様「ゆっくり・いっしょに・たのしく」の理念を合言葉にその人が今「何かしてほしい」また「望んでいる事は何」を見出す為、サインの見極めを職員全体で話し合っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>ホームで発行している「大空だより」を地域や家族に配布している。又家族が地域にすんでいらっしゃる方も多く友人として面会にきて下さる地域の方も居りますので、ホームの雰囲気や伝え易い</p>	<p>地域の老人の方がひまつぶしに気軽に遊びに来れる場所になるようにお願いして行きたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>朝晩の出勤時や利用者さんとの散歩時等、近隣の方とお会いする折には必ず挨拶し、ごみだし等でも迷惑かからない様にしております。その他光や音などにも配慮し環境的にも受け入れていただけるように気配りしています</p>	<p>隣近所から頼りにされるようなホームになるようにしていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>四季折々に関わる行事の誘いかけの封書などその人の身体またその時の状況により活動への参加を判断し対応している。地元でのお祭りには天気状況により参加している。おみこしなどホームの前を通る様取り図って頂いている。</p>	<p>若い頃慣れ親しんだ事の習慣を継続させたい。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域の人達との集まりの場で介護や福祉で分からない事の相談に対応しホームの見学も常時していると伝えてあります。又高齢な家族の身体状況や家族の支援状態の把握に努めています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>指摘を受ける事により更に良い内容の資料を作り活用の範囲を広げたいと考えます。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>全員が受講できるように取り組みます。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>全員が受講できるように取り組みます。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>入居を希望される際また解約をする際御家族の方々に納得を得る為、契約書等必要事項は時間をもうけ説明しています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年1回家族へアンケートにて運営についてのご意見を伺っている又3ヶ月毎のケアプラン更新時に面談して希望。意見を伺っている。苦情受付用紙も備えており、広くご意見を頂ける様にしています。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	全体に対しては定期的に「大空だより」を送付している。個別には通院後の家族への連絡や担当介護員との外出状況を写真。手紙にてお知らせしています。又3ヶ月毎のケアプラン更新時に面談行い報告している。		担当職員と利用者で相談して行き先を決め買い物やドライブ食事など個別の希望で外出する機会を持っている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム入り口に苦情受けを備えている。又ご家族からのご意見や苦情にはご納得いただけるように説明し、記録として保存しています		ご意見や希望を話しやすい雰囲気を作っていきたい
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の全体会議にあわせ匿名でのアンケートを実施している。毎月の課題を提案して、広く職員の意見を参考にして業務内容などを改めたり、新しい取り組みに生かしている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	日常の作業体制を常に意識しその状況に合った人員を配置する様シフト作成時考慮している。また職員の様々な都合も組み入れ不満の出ないシフト表を作成する様心がけている。		四季の中で休日が重なる事がありその時はその状況の中でお互い話し合いによりゆずり合う様言葉を入れる事もある。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	退職者が出ない様心がけている。また移動による影響もあると考えられるが年度変りなどで担当者の変更は多少はしかたのない対応と考える。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の育成の為、研修を受ける機会を全職員に提供している。さらに受けてきた内容の報告書を作成し他の職員に発表するようにしている。</p>	<p>研修報告の内容を聞き他の職員の育成にも役立っている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>様々な研修の場へ参加する事で、他のホームの方々と交流し、お互いに意見交換している。</p>	<p>職員の相互訪問や研修の場になるように働きかけていきたい</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>月1回匿名アンケートを実施して、話づらい事を言えるシステムを作っている。又普段から職員と会話を多くするように心がけ職員が不安なく働ける環境を目指している。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員が向上心を持って働くことに関して研修への誘いがけ、日々の作業の中での見守りとほめ言葉。更に声掛けと笑顔で接する様心掛けています。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人と関わり、ゆっくりと話を聞く。状況によっては手を握るなどのスキンシップを必要と考える。その事により、信頼関係が生まれる事もあると思う。更に本人からの訴え時、口をはさまず話を聞く。</p>	<p>相手と信頼関係を作る事が大切と考える。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族が話し易い雰囲気づくりをする。受け止める姿勢を崩す事なく何時も待てるように関わります。</p>	<p>家族とのコミュニケーションを図る。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容をしっかり受け止め、ホームの立場としてどこまで関われるか、また支援することが可能か見極め対応することが必要と考える。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族から色々な情報を得ながら、興味のある事、また趣味は何かを探り、他の利用者で共通した内容を見い出しながら、溶け込める様関わっている。また職員からの意見も聞きながら工夫を重ねている。		日々の生活の中から徐々に慣れ親しんで頂ける様な雰囲気作りをする。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者の人格や尊厳を尊重した態度で接するように指導し、利用者さんの歩んできた歴史考慮した関わりを指導している		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族のなかでかけがえの無い大切な存在である意識を共有する。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	月に一度は家族の方へ近況報告をしている。身体面・精神面の変化を細かくお話しています。状況によっては通院の都度、受診内容を報告する対応を行っている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	時々ホームの方へ訪ねてくる方、またお電話などにより、馴染みの関係を保っている方。郵便などで継続されている方もいます。本人から求めがあれば援助し関わって行きます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気の合う同士での食事の座席配置や、日中は利用者全員が顔を合わせてコミュニケーションを図る為、デイルームでレクリエーションを楽しむ様配慮している。		世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる様、ホーム内のお手伝い支援にも取り組んでいる。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	年賀状のやり取り、大空新聞の配布、ホーム内のイベントの参加等、協力して頂きながらお付き合いをさせて頂いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思疎通が困難な方でもより深く関わる事で本人の希望を引き出す努力をしています。家族からもケアプランに反映できるよう意見を取り入れています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時の状況調査記録や入所前のケアマネや家族からの情報を担当職員全員で共有している		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個人のケース記録があり、それ一冊ですべての状態が把握できる様になっており、すべての職員が共有化し、個別ケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプラン更新時に家族からの要望をモニタリングで活用し、担当介護員からの情報をサービス担当者会議で収集し、新たなプラン作成やアセスメントにつなげている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	三ヶ月に一度見直しの為に担当者会議を実施している。その他にもケガやADLの変化時に介護計画を見直すように柔軟に対応している		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日のミーティングで伝えられる職員の声を個人のケース記録に記載し早番・日勤・夜勤での様子を毎日記載して介護計画に取り入れています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	施設で対応できる範囲で研修の受け入れを行っている。どなたでも見学して頂けるようにパンフレットを用意している。		毎週1回ボランティアさんに来ていただいている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	サークル活動の発表の場であったり、ボランティアによる民謡、舞踊の慰問を頂いています。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	各事業所との情報交換・連携をはかり本人の希望のサービスを利用できる準備をして行きたい		現在入所されている方で他のサービスを利用されている方が居ないが、今後体制を整えて行きたい。
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括センター主催の研修に参加し、困難事例などの相談を行っている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者・家族の希望する医療機関。また、嘱託医による往診、週一回の看護師によるラウンドにより対応している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	利用者・家族の求める医療機関については、医師と連携が図れている事も有り、指示・助言が得られる。嘱託医に対しても対応できる。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師の資格を有する職員が常勤している。また、夜間・祭日を問わず緊急時に相談・受入れしてくれる協力医療機関がある。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院また家族と連絡を取り、常に意識すると共に早期退院に向け連携を図っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期については家族や本人の意向を第一に考えたケアを家族・医療と連携して行うよう話し合い・理解を深める努力をしています。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度・終末期に本人・家族の意向に出来る限り添える様医療機関と連携を図り、緊急時の対応など検討・準備している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人、家族と納得のいくまで話し合いの場をもち、新しいスタッフとも情報を共有出来る会議を開催し出来るだけダメージを最小にして行く努力をしています。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーの確保の為に出来る事を内部研修などでも徹底するように努めている。又個人が特定できる書類を破棄するときはシュレッターで処理している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>色々な場面で自己決定できる機会を作る。買い物や外出、バイキング形式の食事など</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居前の生活リズムも把握し、一人ひとりに合ったペースでゆっくり・いっしょに・楽しく生活出来る様支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>家族に以前の服装について聞いたり、入居前と変化しない様になっている。いっしょに服・化粧品を買いに行き好きな物を選んで頂いたり、行き付けの理容・美容のある方は希望の所に行っている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事介助の方も多く職員とともに食事できる機会は少ないが、食事を楽しめるように炊事遠足や、屋外での焼肉など色々楽しんでいただける工夫を行っている。又後片づけなどは職員と一緒に行って下さる。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在喫煙を希望される方はいません。飲酒はドクターから禁止がない方に多少楽しんで頂く事も考えていますが、日常的に飲酒をされている方はいません。		行事として多少のお酒を楽しむ機会を用意したい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツは最終手段であり、トイレでの排泄を維持して行く為に排泄状態が変わる時は、本人はもちろん、家族や担当職員やケアマネが検討して排泄方法を決めるようにしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的に火・水・金・土という入浴日が決まっているが、皮膚疾患や本人の希望でいつでも入浴出来る体制になっている。一番風呂を好む方への配慮、その人に合わせて対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活のリズムを把握し、その人に合った方法で日中の活動を増やして行き、自然な形で昼夜逆転を治せる様支援している。		デイルームにソファを設置し、好きな時にひと休みして頂き、そっと布をかけてあげるなど支援している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	以前の職業を生かした役割・趣味・習慣等の把握をしている。楽しみは職員も共に楽しみ、役割を果たして頂いた時は感謝の気持ちを言葉にしている。		以前理容師をしていた方には入浴後のドライヤーを担当して頂いたり、食器洗い・洗濯物たたみ・相撲観戦・カラオケなど色々な場合が見られる。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理できる方はお任せしており、ホームで預かっている方も買物の時は財布を持って頂き、自分で支払いが出来る様支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気が良い日は毎日散歩に出かけて居ます。中庭で食事やおやつを楽しむ事もあります。買い物やドライブなども取り組みとして実施しています。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別には利用者さんの希望を聞いて担当職員と外出する取り組みをしており、食事や、買い物など個々の希望の外出を支援しています。全体としては、地域のお祭りや出店などにホーム全体で外出しています。家族さんとは墓参りに出かけられる方も数人いらっしゃいます。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話を利用したい方には、その方に合った方法でお手伝いをしています。手紙や小包は、本人に必ず開封をしていただきます。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者さんへの来客時は笑顔で気持ちよい挨拶を行い、お茶、椅子を勧めゆっくりして下さいと声をかける事を実施しております。又お帰りになる時は外までお見送りして又お待ちしていますと声をかけています。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について、研修を行い職員全員が理解に努めています。止む無くベット柵を使用している方からは、同意書を頂いています。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中施錠はしていません。行動パターンの把握、外出を察知し、本人が納得されるまで親身に対応をしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>利用者さんの行動パターン。生活パターンを把握して、所在確認を行っています。</p>		
<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>職員の目の届く所に保管し、保管場所には鍵をかけています。</p>		
<p>事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>ヒヤリハットの時点で事故を防ぐように、会議で検討し介護方法の改善、環境整備などに活用している。</p>		
<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>緊急時のマニュアルを作成しており、電話の前に設置する事で落ち着いた対応が行える。</p>		
<p>災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>火災訓練に関しましては年2回通報、避難、消火器の使用を行い防火チェック表を作成し点検を行っている。災害に関しては特別実施していない。</p>		<p>災害時マニュアルを作成する準備をしている。</p>
<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>家族の方と情報の共有をし、話し合いを行い一番良い方法を考えています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタル測定、食事、水分の摂取量を記録し、身体の変化や異常に気づいた際には、バイタル測定をする事で早期発見が出来るように、職員全員が心掛けています。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師からの指示内容、内服の変更は、口頭、記録により、全職員が周知出来る体制を組んでいます。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	下剤を服用するのではなく、自然排便を促す為に食事、水分の工夫やストレスによる便秘も視野に入れ、楽しく体を動かす機会を作るように支援をしています。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人々の口腔ケア状態が把握できる表を作成し、支援している		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	刻み、ミキサー、など、一人ひとりに合わせた食事形態を見極め対応をしています。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者、職員のインフルエンザ予防接種の実施、施設内の衛生面、また医療機関との連携を図り、対応の徹底をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>役割を分担し、清潔を保つ為チェック表の記入、台所の消毒、手洗いの徹底を行っています。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関先には、入居者と一緒に手入れをしている花壇があり、冬には、雪だるまを作り、親しみやすいよう工夫をしています。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ディルームには、季節に合った飾り、心地良い音楽が流れ、吹き抜けの天窗からは、光が射し込む為開放感があり、穏やかに過ごしています。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ディルームにはソファ、食堂には食卓テーブルがあり、夏期には、中庭には椅子を設置し、日光浴やお茶を楽しんでいただけるよう配慮をしています。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者それぞれの生活調度品を持ち込み、住み慣れた環境になるように心掛けています。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>各居室に温度計を設置、こまめにチェックを行い窓の開閉、換気扇の使用し調節をする事で、適温を維持している。希望者には、加湿器を設置して過ごしやすい環境作りを心掛けています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個人のできる能力に合わせて洗濯物たたみ、食器洗い、配膳などをして頂いています。		出来る仕事の種類が少なく、何か作る事にも参加していただけるように準備して行きたい。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	職員全員が入居者の身体状況、生活歴を把握し、混乱しないように気を配り、安心していただけるような声掛けをしています。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関先の花壇の手入れ、水撒き、落ち葉拾い、など季節に応じた作業に活用して頂ける環境作りをしている。		より多くの活動に利用したいと考えています。



. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>本人・家族からの聞き取りや、本人の生活パターン・表情等から読み取り、意向に沿える様努力している。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>それぞれの利用者にあったレクリエーションを行い、ゆっくり・楽しく過ごしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>その方を知りペースを崩さぬ様、常に念頭において支援している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>利用者・職員との信頼関係が保たれており、利用者の笑顔も多い。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>その方の身体状況で困難な場合もあるが、希望により外出できる。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>週に一回の看護師による問診により、安心して過ごされている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>その方らしさ・希望を一番に考え、常に支援している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>○ ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>来園時・電話・各居室に設置されているノートにより利用者の生活をお伝えし、常にコミュニケーションが図れ、安心した表情が見られる。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>馴染みの方が来園され、楽しそうに話をされています。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない	家族会は行っているが、推進会議はしていないので今後は積極的に行いたいです。
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	全員が助け合い、協力を心掛けている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	一人ひとりに合ったサービスを提供し、本人や家族の意向を取り入れています。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	サービスについて、丁寧に説明を行う事で満足をしている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ) ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム大空 Bユニット	評価実施年月日	平成21年9月1日
評価実施構成員氏名	福澤 森谷 松田		
記録者氏名	森谷	記録年月日	平成21年9月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	人としての尊厳を守り、住み慣れた地域でその人らしい生活を継続していける様にできるだけ地域行事へ参加や、地域商店の利用、地域での散歩を実施しています。又町内会、地域推進委員会の方との交流を通し地域の住人として親しまれる施設である様努めています。		地域の方も気軽に来所して頂けるホームを目指したい。ホームから地域の老人クラブへ訪問し交流する予定があります。
2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	その人らしく日々生活して頂ける様「ゆっくり・いっしょに・たのしく」の理念を合言葉にその人が今「何かしてほしい」また「望んでいる事は何」を見い出す為、サインの見極めを職員全体で話し合っている。		
3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ホームで発行している「大空だより」を地域や家族に配布している。又家族が地域にすんでいらっしゃる方も多く友人として面会にきて下さる地域の方も居りますので、ホームの雰囲気や伝え易い		地域の老人の方がひまつぶしに気軽に遊びに来れる場所になるようにお願いして行きたい。
2. 地域との支えあい			
4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	朝晩の出勤時や利用者さんとの散歩時等、近隣の方とお会いする折には必ず挨拶し、ごみだし等でも迷惑かからない様にしております。その他光や音などにも配慮し環境的にも受け入れていただけるように気配りしています		隣近所から頼りにされるようなホームになるようにしていきたい。
5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	四季折々に関わる行事の誘いかけの封書などその人の身体またその時の状況により活動への参加を判断し対応している。地元でのお祭りには天気状況により参加している。おみこしなどホームの前を通る様取り図って頂いている。		若い頃慣れ親しんだ事の習慣を継続させたい。
6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の人達との集まりの場で介護や福祉で分からない事の相談に対応しホームの見学も常時していると伝えてあります。又高齢な家族の身体状況や家族の支援状態の把握に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>指摘を受ける事により更に良い内容の資料を作り活用の範囲を広げたいと考えます。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>全員が受講できるように取り組みます。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>全員が受講できるように取り組みます。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>入居を希望される際また解約をする際御家族の方々に納得を得る為、契約書等必要事項は時間をもうけ説明しています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年1回家族へアンケートにて運営についてのご意見を伺っている又3ヶ月毎のケアプラン更新時に面談して希望。意見を伺っている。苦情受付用紙も備えており、広くご意見を頂ける様にしています。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	全体に対しては定期的に「大空だより」を送付している。個別には通院後の家族への連絡や担当介護員との外出状況を写真、手紙にてお知らせしています。又3ヶ月毎のケアプラン更新時に面談を行い報告している。		担当職員と利用者で相談して行き先を決め買い物やドライブ食事など個別の希望で外出する機会を持っている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム入り口に苦情受けを備えている。又ご家族からのご意見や苦情にはご納得いただけるように説明し、記録として保存しています		ご意見や希望を話しやすい雰囲気を作っていきたい
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の全体会議にあわせ匿名でのアンケートを実施している。毎月の課題を提案して、広く職員の意見を参考にして業務内容などを改めたり、新しい取り組みに生かしている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	日常の作業体制を常に意識しその状況に合った人員を配置する様シフト作成時考慮している。また職員の様々な都合も組み入れ不満の出ないシフト表を作成する様心がけている。		四季の中で休日が重なる事がありその時はその状況の中でお互い話し合いによりゆずり合う様言葉を入れる事もある。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	退職者が出ない様心がけている。また移動による影響もあると考えられるが年度変りなどで担当者の変更は多少はしかたのない対応と考える。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の育成の為、研修を受ける機会を全職員に提供している。さらに受けてきた内容の報告書を作成し他の職員に発表するようにしている。</p>	<p>研修報告の内容を聞き他の職員の育成にも役立っている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>様々な研修の場へ参加する事で、他のホームの方々と交流し、お互いに意見交換している。</p>	<p>職員の相互訪問や研修の場になるように働きかけていきたい</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>月1回匿名アンケートを実施して、話づらい事を言えるシステムを作っている。又普段から職員と会話を多くするように心がけ職員が不安なく働ける環境を目指している。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員が向上心を持って働くことに関して研修への誘いがけ、日々の作業の中での見守りとほめ言葉。更に声掛けと笑顔で接する様心掛けています。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人と関わり、ゆっくりと話を聞く。状況によっては手を握るなどのスキンシップを必要と考える。その事により、信頼関係が生まれる事もあると思う。更に本人からの訴え時、口をはさまず話を聞く。</p>	<p>相手と信頼関係を作る事が大切と考える。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族が話し易い雰囲気づくりをする。受け止める姿勢を崩す事なく何時も待ってるように関わります。</p>	<p>家族とのコミュニケーションを図る。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容をしっかり受け止め、ホームの立場としてどこまで関われるか、また支援することが可能か見極め対応することが必要と考える。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族から色々な情報を得ながら、興味のある事、また趣味は何かを探り、他の利用者で共通した内容を見い出しながら、溶け込める様関わっている。また職員からの意見も聞きながら工夫を重ねている。		日々の生活の中から徐々に慣れ親しんで頂ける様な雰囲気作りをする。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者の人格や尊厳を尊重した態度で接するように指導し、利用者さんの歩んできた歴史考慮した関わりを指導している		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族のなかでかけがえの無い大切な存在である意識を共有する。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	月に一度は家族の方へ近況報告をしている。身体面・精神面の変化を細かくお話しています。状況によっては通院の都度、受診内容を報告する対応を行っている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	時々ホームの方へ訪ねてくる方、またお電話などにより、馴染みの関係を保っている方。郵便などで継続されている方もいます。本人から求めがあれば援助し関わって行きます。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気の合う同士での食事の座席配置や、日中は利用者全員が顔を合わせてコミュニケーションを図る為、デイルームでレクリエーションを楽しむ様配慮している。		世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる様、ホーム内のお手伝い支援にも取り組んでいる。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	年賀状のやり取り、大空新聞の配布、ホーム内のイベントの参加等、協力して頂きながらお付き合いをさせて頂いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思疎通が困難な方でもより深く関わる事で本人の希望を引き出す努力をしています。家族からもケアプランに反映できるよう意見を取り入れています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時の状況調査記録や入所前のケアマネや家族からの情報を担当職員全員で共有している		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個人のケース記録があり、それ一冊ですべての状態が把握できる様になっており、すべての職員が共有化し、個別ケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプラン更新時に家族からの要望をモニタリングで活用し、担当介護員からの情報をサービス担当者会議で収集し、新たなプラン作成やアセスメントにつなげている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	三ヶ月に一度見直しの為に担当者会議を実施している。その他にもケガやADLの変化時に介護計画を見直すように柔軟に対応している		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日のミーティングで伝えられる職員の声を個人のケース記録に記載し早番・日勤・夜勤での様子を毎日記載して介護計画に取り入れています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	施設で対応できる範囲で研修の受け入れを行っている。どなたでも見学して頂けるようにパンフレットを用意している。		毎週1回ボランティアさんに来ていただいている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	サークル活動の発表の場であったり、ボランティアによる民謡、舞踊の慰問を頂いています。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	各事業所との情報交換・連携をはかり本人の希望のサービスを利用できる準備をして行きたい		現在入所されている方で他のサービスを利用されている方が居ないが、今後体制を整えて行きたい。
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括センター主催の研修に参加し、困難事例などの相談を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者・家族の希望する医療機関。また、嘱託医による往診、週一回の看護師によるラウンドにより対応している。</p>		
<p>44</p> <p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>利用者・家族の求める医療機関については、医師と連携が図れている事も有り、指示・助言が得られる。嘱託医に対しても対応できる。</p>		
<p>45</p> <p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護師の資格を有する職員が常勤している。また、夜間・祭日を問わず緊急時に相談・受入れしてくれる協力医療機関がある。</p>		
<p>46</p> <p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>病院また家族と連絡を取り、常に意識すると共に早期退院に向け連携を図っている。</p>		
<p>47</p> <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>終末期については家族や本人の意向を第一に考えたケアを家族・医療と連携して行うよう話し合い・理解を深める努力をしています。</p>		
<p>48</p> <p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度・終末期に本人・家族の意向に出来る限り添える様医療機関と連携を図り、緊急時の対応など検討・準備している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人、家族と納得のいくまで話し合いの場をもち、新しいスタッフとも情報を共有出来る会議を開催し出来るだけダメージを最小にして行く努力をしています。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーの確保の為に出来る事を内部研修などでも徹底するように努めている。又個人が特定できる書類を破棄するときはシュレッターで処理している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>色々な場面で自己決定できる機会を作る。買い物や外出、バイキング形式の食事など</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居前の生活リズムも把握し、一人ひとりに合ったペースでゆっくり・いっしょに・楽しく生活出来る様支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>家族に以前の服装について聞いたり、入居前と変化しない様になっている。いっしょに服・化粧品を買いに行き好きな物を選んで頂いたり、行き付けの理容・美容のある方は希望の所に行っている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事介助の方も多く職員とともに食事できる機会は少ないが、食事を楽しめるように炊事遠足や、屋外での焼肉など色々楽しんでいただける工夫を行っている。又後片づけなどは職員と一緒に行って下さる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在喫煙を希望される方はいません。飲酒はドクターから禁止がない方に多少楽しんで頂く事も考えていますが、日常的に飲酒をされている方はいません。		行事として多少のお酒を楽しむ機会を用意したい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツは最終手段であり、トイレでの排泄を維持して行く為に排泄状態が変わる時は、本人はもちろん、家族や担当職員やケアマネが検討して排泄方法を決めるようにしています。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的に火・水・金・土という入浴日が決まっているが、皮膚疾患や本人の希望でいつでも入浴出来る体制になっている。一番風呂を好む方への配慮、その人に合わせて対応している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活のリズムを把握し、その人に合った方法で日中の活動を増やして行き、自然な形で昼夜逆転を治せる様支援している。		デイルームにソファを設置し、好きな時にひと休みして頂き、そっと布をかけてあげるなど支援している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	以前の職業を生かした役割・趣味・習慣等の把握をしている。楽しみは職員も共に楽しみ、役割を果たして頂いた時は感謝の気持ちを言葉にしている。		以前理容師をしていた方には入浴後のドライヤーを担当して頂いたり、食器洗い・洗濯物たたみ・相撲観戦・カラオケなど色々な場合が見られる。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理できる方はお任せしており、ホームで預かっている方も買物の時は財布を持って頂き、自分で支払いが出来る様支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気が良い日は毎日散歩に出かけて居ます。中庭で食事やおやつを楽しむ事もあります。買い物やドライブなども取り組みとして実施しています。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別には利用者さんの希望を聞いて担当職員と外出する取り組みをしており、食事や、買い物など個々の希望の外出を支援しています。全体としては、地域のお祭りや出店などにホーム全体で外出しています。家族さんとは墓参りに出かけられる方も数人いらっしゃいます。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話を利用したい方には、その方に合った方法でお手伝いをしています。手紙や小包は、本人に必ず開封をしていただきます。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者さんへの来客時は笑顔で気持ちよい挨拶を行い、お茶、椅子を勧めゆっくりして下さいと声をかける事を実施しております。又お帰りになる時は外までお見送りして又お待ちしていますと声をかけています。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について、研修を行い職員全員が理解に努めています。止む無くベット柵を使用している方からは、同意書を頂いています。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中施錠はしていません。行動パターンの把握、外出を察知し、本人が納得されるまで親身に対応をしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>利用者さんの行動パターン。生活パターンを把握して、所在確認を行っています。</p>		
<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>職員の目の届く所に保管し、保管場所には鍵をかけています。</p>		
<p>事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>ヒヤリハットの時点で事故を防ぐように、会議で検討し介護方法の改善、環境整備などに活用している。</p>		
<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>緊急時のマニュアルを作成しており、電話の前に設置する事で落ち着いた対応が行える。</p>		
<p>災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>火災訓練に関しましては年2回通報、避難、消火器の使用を行い防火チェック表を作成し点検を行っている。災害に関しては特別実施していない。</p>		<p>災害時マニュアルを作成する準備をしている。</p>
<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>家族の方と情報の共有をし、話し合いを行い一番良い方法を考えています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタル測定、食事、水分の摂取量を記録し、身体の変化や異常に気づいた際には、バイタル測定をする事で早期発見が出来るように、職員全員が心掛けています。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師からの指示内容、内服の変更は、口頭、記録により、全職員が周知出来る体制を組んでいます。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	下剤を服用するのではなく、自然排便を促す為に食事、水分の工夫やストレスによる便秘も視野に入れ、楽しく体を動かす機会を作るように支援をしています。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人々の口腔ケア状態が把握できる表を作成し、支援している		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	刻み、ミキサー、など、一人ひとりに合わせた食事形態を見極め対応をしています。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者、職員のインフルエンザ予防接種の実施、施設内の衛生面、また医療機関との連携を図り、対応の徹底をしています。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>役割を分担し、清潔を保つ為チェック表の記入、台所の消毒、手洗いの徹底を行っています。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関先には、入居者と一緒に手入れをしている花壇があり、冬には、雪だるまを作り、親しみやすいよう工夫をしています。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ディルームには、季節に合った飾り、心地良い音楽が流れ、吹き抜けの天窗からは、光が射し込む為開放感があり、穏やかに過ごしています。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ディルームにはソファ、食堂には食卓テーブルがあり、夏期には、中庭には椅子を設置し、日光浴やお茶を楽しんでいただけるよう配慮をしています。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者それぞれの生活調度品を持ち込み、住み慣れた環境になるように心掛けています。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>各居室に温度計を設置、こまめにチェックを行い窓の開閉、換気扇の使用し調節をする事で、適温を維持している。希望者には、加湿器を設置して過ごしやすい環境作りを心掛けています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>個人のできる能力に合わせ洗濯物たたみ、食器洗い、配膳などをして頂いています。</p>	<p>出来る仕事の種類が少なく、何か作る事にも参加していただけるように準備して行きたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>職員全員が入居者の身体状況、生活歴を把握し、混乱しないように気を配り、安心していただけるような声掛けをしています。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関先の花壇の手入れ、水撒き、落ち葉拾い、など季節に応じた作業に活用して頂ける環境作りをしている。</p>	<p>より多くの活動に利用したいと考えています。</p>

. サービスの成果に関する項目			
	項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない	本人・家族からの聞き取りや、本人の生活パターン・表情等から読み取り、意向に沿える様努力している。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	それぞれの利用者にあったレクリエーションを行い、ゆっくり・楽しく過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	その方を知りペースを崩さぬ様、常に念頭において支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	利用者・職員との信頼関係が保たれており、利用者の笑顔も多い。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	その方の身体状況で困難な場合もあるが、希望により外出できる。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	週に一回の看護師による問診により、安心して過ごされている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	その方らしさ・希望を一番に考え、常に支援している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない	来園時・電話・各居室に設置されているノートにより利用者の生活をお伝えし、常にコミュニケーションが図れ、安心した表情が見られる。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	馴染みの方が来園され、楽しそうに話をされています。

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない	家族会は行っているが、推進会議はしていないので今後は積極的に行いたいです。
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	全員が助け合い、協力を心掛けている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	一人ひとりに合ったサービスを提供し、本人や家族の意向を取り入れています。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	サービスについて、丁寧に説明を行う事で満足をしている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)